



## 日韓親善合同会議報告

国際奉仕委員長 堤親朗君

去る9月4日(金)から6日(日)の3日間、日韓親善会議に9名の参加を得て、出席をして来ました。今回の目的は、国際奉仕として韓国との交流は勿論ですが、来年行われる沼津北RC創立50周年記念式典への参加を、姉妹クラブである公州RCへ、お願いをして参りました。

9月4日、会場であるグランドハイアットには、600名を越える日本からのロータリアンが集う中、現公州RC朴(パク)会長様及び姜(カン)幹事様そして通訳の3名が、私共を丁重に出迎えていただきました。山本会長からのメッセージを西島社長の会社で韓国語に翻訳した書簡を渡したところ、公州RCとして来年11月には、尹(ユン)先生を中心として大勢で伺いますと、約束をしていただきました。因みに現会長及び幹事様は、2007年10月10日に以前在籍しておりました吉川さんを団長として、公州RC30周年の記念式典に招かれた時に、ホスト役をしていただいたお二人で、当クラブの影島さんや鈴木幸彦さんのような元気でお酒のめっぽう強い方でした。

また、ご丁寧に出席者全員に公州地方で有名なお酒までお土産に頂きました。私共は、沼津西武から和菓子を買って行きましたが、国際奉仕の委員長としての気配りが足らず大変恐縮しております。50周年記念式典の折は、十分考慮していただけますようお願い致します。

ともあれ、50周年記念式典へのインビテーションレターを無事渡すことが出来たため、私はこの時点で旅行モードに突入しました。そして、朝早くからの緊張と疲れにイヤホンから流れてくる同時通訳の女性の美しい声が子守唄となり、いつの間にかスヤスヤと深い眠りに陥ったため、レセプションでの内容を全く覚えておりません。すみません。さて、ここからは少し楽しい話をさせていただきます。まず当日のメンバーですが、西島君、小笠原君、石川君、影島君、鈴木幸彦君、馬場君、奈良橋君、大貫君夫妻、大滝さん、沼津西RCの鈴木博之君、そして私の計12名でした。

この中でも石川君、馬場君、奈良橋君は、初めての韓国旅行であるがために緊張と不安、何を食べさせられるのか、インフルエンザは大丈夫か等、少しナーバスな所が伺えましたが、新婚さんの大貫夫人と当クラブの大滝さんは、まるで修学旅行の中学生のように朝からハイテンションでした。

9月4日金曜日JAL8831 8:20発で羽田より、韓国

金浦国際空港に向かい、10:30到着いたしました。宿泊先であるJWマリオットにチェックイン。ここでも喫煙者は肩身の狭い思いをする事になりました。それは、禁煙ルームは22階の市内が一望できる部屋を用意されており、喫煙者については、8階の玄関の屋根と道路しか見えない部屋でした。折角JTB林田君の計らいで、メンバー全員の部屋を最高の部屋にさせていただいたのですが、勝手に変更させていただきました。でも部屋としては、5星のホテルだけあって清潔で広く、アメニティーも充実されておりました。ただ韓国のホテルは、歯ブラシ・髭剃りは常備しておりませんので、戸惑った人もおられたと思います。

13時にグランドハイアットのロビーで公州RCのメンバーと待ち合わせをしておりましたので、休むことなく早々に会場に出かけました。前日に日本から公州RCの前会長の携帯電話に連絡をさせていただき、待ち合わせ場所と時間を決めましたが、前会長は韓国語しか話せなかったため、私の知人に電話をかけていただきました。その為今回の訪韓目的である50周年式典へのインビテーションレターを、渡されるかどうか大変不安でしたが、その心配もタクシーを降りた瞬間に消え、現会長と幹事様が、屈託の無い笑顔で出迎えておりました。

受付を済ませた後、小腹が減っておりましたので、友愛の広場で(韓国語では分かりません)韓国郷土菓子(おやつ)とお茶を頂きました。唐辛子で辛いのが韓国であると思っておりましたが、ここに用意されたお菓子は全て甘くて、たいらげるのに一苦労いたしました。

また、ロータリーバッチをホテルに忘れた私は、バッチを買うべく友愛広場に併設されていた売店に行きました。ここですごい事を発見しました。なんとバッチ1個の値段が76円であったからです。

確かに作りは、日本とは異なりますが、ロータリー財団へのバックマージンはいったいいくらになるのか心配になるほど安価であり、皆さんへのお土産としては、またとないチャンスだったのですが、伝統ある沼津北クラブの諸先輩に76円のバッチでは失礼であると、前会長よりご指摘がありましたので、唯一のチャンスを断念いたしました。皆様へのお土産は今回のお話と全員元気に戻って来たことにさせていただきます。

さて、第2の目的であったレセプションですが、先に話させていただいたように睡魔に襲われて全く覚えておりませんので、訪韓したメンバーとテーブル会に同席した折にここでは、話のできない事なども含めて、後日うかがっていただきたいと思います。